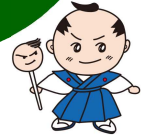


ある町の天気相談所

Vol.09
2018.9.7

平成30年 9月号



出張！日立市天気相談所
を開催しました。

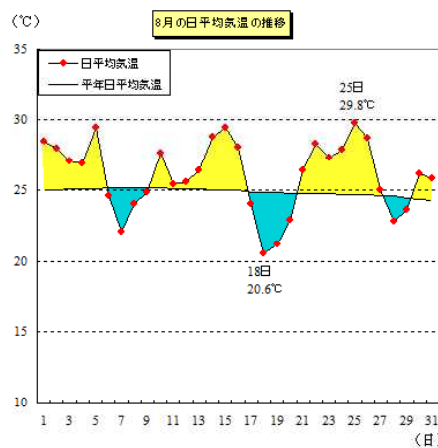
8月7日、イトーヨーカドー日立店4階において、開催しました。当日は30人の来場があり、自由研究の相談や雲を発生させる体験、本物の雨量計を用いて、雨量の測り方などを体験してもらいました。



8月の気候

8月は、平均気温が26・0度と平年より高くなりました。中旬にかけては、寒暖の差が大きく、25日には最高気温が36・3度と今年はじめでの猛暑日も観測しました。最低気温が25℃以上の日も8日ありました。

日照時間は168・8時間。降水量は142・0ミリと上旬に少なく、下旬に多く雨が降りましたが、どちらも平年よりやや少なくなりました。



1カ月予報 (気象庁発表)

9月は、数日の周期で天気は変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多く、気温は平年並みか高く、降水量も平年並みか多く、日照時間は平年並か少ない見込みです。

天気相談所のあゆみ

ある町の高い煙突

日立での煙害対策を元にした小説「ある町の高い煙突」。映画化されるなど、話題となつていますが、この小説の誕生には天気相談所の存在が必要でした。小説の作者である新田次郎氏は、元気象庁の職員でした。日立市天気相談所初代所長である、山口秀男氏も元気象庁職員であり、新田氏と知り合いました。山口氏が天気相談所で勤務をはじめ、煙害の歴史を知り、小説の題材とならないかと、新田氏に紹介したことがはじまりです。昭和42(1967)年の秋には、取材のために新田氏が日立を訪れ、天気相談所の職員が、天気相談所や神峰山観測所を案内したり、物語の主人公のモデルとなる関右馬允氏などを紹介し、煙害対策の歴史などの資料を提供しました。

小説は昭和44(1969)年度の「青少年読書感想文全国コンクール」高等学校の部の課題図書にもなりました。

日立市として天気相談所を鉾山から引き継がなければ、また、山口氏が、天気相談所に所長として来なければ、新田次郎の「ある町の高い煙突」は誕生しなかったかもしれません。

天気の用語の基礎知識

熱帯夜

前日の夜から当時の朝にかけての最低気温が25度以上の日を熱帯夜といいます。通常、最低気温は日の最低気温(0時から日付が変わるまで)が用いられるため、熱帯夜の日数の統計はありませんが、日最低気温が25度以上の日数の統計はあります。

日立市役所において、日最低気温が25℃以上の日は、平年では年間で2・5日。最も多かった年で15日です。今年は8月末までに13日あり。最多記録更新の可能性があります。

神峰の山から

先月紹介の「おべんとうの時間」に続き、8月は「茨城県北クリエティブプロジェクト」の「海と山の間を歩く」に紹介されました。写真家の松本美枝子さんが取材し、元所長の富岡さんや現在の職員のインタビューを通して、天気相談所の歴史と役割をわかりやすく記事にしてくださいました。なお、この連載は、日立市の話題を中心に掲載していくので、1回目はカンブリア紀の地層です。

天気相談所の職員や、仕事の様子が写真付きで載っています。ぜひ御覧ください。